

平板測量競技県大会

昨日、本校を会場に平板測量競技県大会が行われました。これは島根県学校農業クラブ連盟が主催するもので、平板測量の技術を用いて、指定された測量区域の境界線測量と、測量成果をもとにした面積計算、図面仕上げを行います。競技は3人1チームで行われ、制限時間内にかに早く、正確に測量できるかを競います。出雲農林高校2チーム、邇摩高校1チームと本校2チームで、3校から5チームが参加して行われました。邇摩高校からの参加は2010年度以来8年ぶりでした。邇摩高校は「測量」という授業が今はないため、放課後等を利用して測量の技能を磨いてきたそうです。指導する教員も生徒も大変だったろうと思いますが、参加した生徒の、将来を見据えて測量の知識や技能を少しでも習得しておきたいという意欲からのスタートだったようで、放課後等を利用した測量の授業・実習が始まったようです。自分たちの興味・関心、意欲を競技会に出ることで形にしたい、そしてそれをサポートする教員とともに頑張っている大会に臨んでくれたことは大いに評価できることだと思います。

土木工事や建築工事などあらゆる工事の基礎となる測量は、近年自動計測やドローンなどを用いた技術進歩がめざましいのですが、現場における詳細で高精度の地図が求められる測量には、人の目と手を用いた従来の測量手法が欠かせないといわれています。測量を仕事として行うには、厳しい野外作業をこなせる体力と地道なデスクワークに耐えられる忍耐力、人間関係を良好にするコミュニケーション力、予断を持たずにデータと向き合う真摯な姿勢などが必要な力とされています。

私も高校時代に「測量」を習ったのですが、当時私は乳用牛・肉用牛を学びたいと思っていて、測量は私にとって必要のないものと安易に考えており、真剣に学びませんでした。教員となって畜産を主に授業や実習をこれまで行ってきたのですが、高校のとききちんと測量をやっておけばよかったと幾度となく後悔しました。高校時代に学ぶものに無駄なものはなく、いつどこでどのような形で学んだことが生かされるのかは、その人の学びに向かう姿勢で決まるものなのだとこの測量競技会を見るたびに私の過去を反省しています。

競技が始まった頃の気温は36度。連日熱中症への注意喚起が行われていたため、水分・塩分の補給と休憩時間をとることなどに注意しながら競技を行いました。農業クラブの県連事務局は、塩飴や飲み物を準備するなどして対策を講じていました。島根県農林水産部から池田功一様、安立理沙様、野口竜太様の3名を審査委員としてお手伝いいただき実施することができ感謝申し上げます。

結果は出雲農林高校Aチームが最優秀賞で、鹿児島で行われる全国大会へ出場することになったようです。本校Bチーム（藤井咲希さん、山田璃子さん、清山結衣さん、いずれも環境土木科3年）はこの優勝したチームに1点差で第2位だったようです。本当に残念で、悔しい結果となってしまいましたが、うまくいかなかった原因をしっかりと分析して、それを後輩につなげてほしいと思います。

